

サーベイランスの基礎的な研究は達成された。

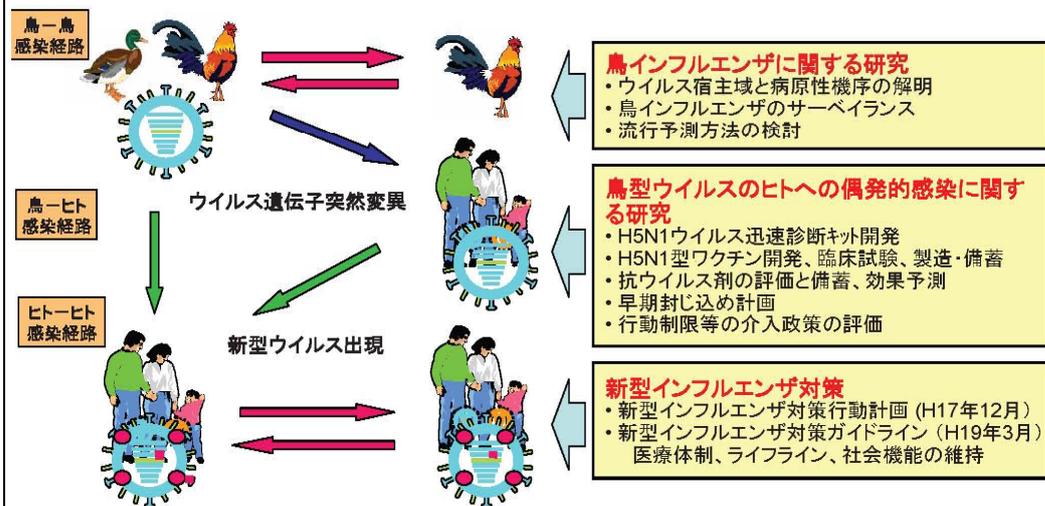
- ・ 感染症の改正に伴う病原体保管管理などを安全かつ正確に行う新システムを提案する。その有用性を検証中である。

新型インフルエンザへの事前準備と大流行発生時の緊急対応計画に関する研究

分かっていたこと 20世紀には3回の新型インフルエンザ大流行があり、数百万～数千万人が死亡しました。現在、H5N1型高病原性鳥インフルエンザが世界的に流行しており、人への感染も増えています。H5N1型鳥ウイルスは徐々にヒト型へ変化しつつあり、強い病原性を持った新型インフルエンザの出現が心配されます。

今回の成果 新型インフルエンザ対策ガイドラインを作成するため、その基となる実験・調査等の研究を包括的に行いました。

今回の成果の意義 本研究の成果や最新の知見を基に、新型インフルエンザ専門家会議が「新型インフルエンザ対策ガイドライン」を作成しました。新型インフルエンザの大流行による健康被害の最小化と、社会・経済機能の崩壊防止が期待されます。



⑤課題と今後の方向性

- ・ 日和見感染症としての深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査法と抗真菌薬の開発、並びに病原因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究を行う。
- ・ 病原性抗酸菌感染症においても薬剤耐性菌の出現が大きな問題となっており、新たな治療法及び予防法の確立が急務である。得られた成果をさらに発展させる必要性が高い。
- ・ 野生動物も含めた疫学研究、特に病原体の生態学的研究を行う。
- ・ エイズ、鳥インフルエンザの治療薬開発についてはアジア（中国）等との国際連携を視野に入れた研究を行う。

⑥研究事業の総合評価

- ・ 新興・再興感染症については、国家の安心・安全対策としても、今後、対策を行うべき問題である。当該研究事業については、昨今話題となっているSARS、新型インフルエンザに関する研究を始め、近い将来克服され则认为られていたが再興がみられる結核等に関する研究をはじめ幅広い分野に関して、病態解明、予防、治療法の開発のみならず、行政が行う対策に資する